

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

**※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。**

1. 学校概要

学校名 東京都目黒区立五本木小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 153-0033  
東京都目黒区五本木2-24-3

E-mail : \_\_\_\_\_

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 161名 女子 166名 合計 327名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

ESDを推進するユネスコスクールとして、全教育活動を通して、命のつながりを大切にする実践やCSRのゲストティーチャーによる「命の授業」（各学級年間）を関連付けながら、「五本木未来遺産 いのち」の取り組みを行い、「学びをつなげ 深め 広げる子ども」の姿を願った。

校内研究では、生活科と総合的な学習の時間で、命を大切にする視点で、年間6つの授業研究・協議会を重ねた。聖心女子大学の永田佳之先生、文部科学省の田村学先生他の講師の先生、地域や保護者、ゲストティーチャー、目黒ユネスコ協会に御指南をいただいた。

1年間の各学年の実践を紀要にまとめるとともに、命のつながりを大切にする実践を「五本木未来遺産 いのち」のリーフレットにまとめ、保護者や地域、他校ユネスコスクールに配布し、本校の取り組みを発信した。

#### 平成25年度の各学年の実践

##### 1年生 生活科「はるとともだち」

子どもたちにとって身近な自然である「五本木の森」で見つけた樹木や草花、虫などの自然に、諸感覚を使って触れ合いながら、遊んだり、観察したりすることを通して、春の自然やいのちの様子や、自然遊びの楽しさに気付くことができるようにすることをねらいとした。季節によって自然や生活の様子が変わることや、自然と自然、自分たちの生活と自然とは、お互いにつながりながら生きていくことに気付けるようにしたいと考えた。

子どもたちは、五本木の森で虫を見つけたり、草花遊びをしたり、目や鼻、手や耳を使って、五本木の森のはっぱをたくさん見つけた。ハートの形のはっぱや、においのするはっぱ、つるつるのはっぱ、はっぱのすれる音も聴いて、春の五本木の森となかよくなることができた。

##### 2年生 生活科「タイムマシンにのろう～自分さがしを通して、つながりを学ぶ～」

家族や周りの人々の思いに触れ、これまでの知らない自分をさがし、出会うことで、自分の成長を実感する学習である。たくさんの新たな発見や多くの驚き、さらにはいっぱい感謝の気持ちも表れてくることを願った。小さい頃のことを調べたり、自分ができるようになったことや役割が増えたことを見つけたりする活動を通して自分の成長を実感し、今の自分に対する自信や、未来に向かっての希望をもてるように、学習活動を考えた。

地域の保育園を訪問し、0～1歳児クラスと交流した。幼児と直接触れ合い、保育士の園児への思いを聞くことで小さな命を慈しむ気持ちが芽生えた。また、自分を育ててくれた感謝の気持ちを家族に手紙に書いて贈り、その返事をもらう体験をした。手紙を何度も読み返す子や、涙を見せる姿もあり、自分が愛情を受けて大切に育てられてきたことを実感した。

##### 3年生 総合的な学習の時間「五本木の森の案内人になろう」

大きな木々に囲まれ、鳥や虫、さまざまないきものたちが生存する五本木の森は、都会の真ん中であって自然を意識できる大切な場、空間である。学校の一角にあり、子どもたちは、低学年の頃から四季折々の森に触れ、

様々なことを感じ取る学びの場である。子どもたちはこの森を未来にもずっと残したいと思っている。木陰は涼しい。ようしゅやまごぼうできれいな和紙染めができた。笹舟をつくって池に浮かべる。木をさわるといあったかい。森でどんなことができるか体験を通して考えた。

目黒区の「緑と公園課」の方々にもお話を伺いながら、虫やいきもの、木々や草花について調べ、土の中にも五本木の森がよりよくなるためにできることをみんなで考えることができた。子どもたちはずっとずっとみんなまで五本木の森をみていこう。地域や学校 みんなに森の様子を伝えたいという思いを強くした。学習の成果を「緑と公園課」と地域の人々に発表し、野鳥の会の柳生博氏森について考える機会を得た。

#### 4年生 総合的な学習の時間「五本木の未来の街を創ろう」

自分たちの住む目黒五本木の地域に目を向け、そこで暮らす人々について考え、五本木街の未来に向けて自分たちができることは何かを考えていてほしいと願った。

社会福祉協議会の方々と招き、高齢者体験や、地域の方に五本木の街についてインタビューすることで、相手の思いや願いを知り、自分とは立場の異なる人の気持ちを体験的に理解することができた。

命の授業では、聴診器で自分や友だちの心音を聴いたり、自分が生まれるまでに何人の祖先が必要だったかという話から、ひとりひとりの命の重みを実感することができた。もっと自分たちからあいさつをして地域の人と関わろう、街に緑を増やしたいという思いを強くした。

#### 5年生 総合的な学習の時間「食と命のバトンをつなぐ」

食が命をつないでいることを理解し、「食」と「命」の関わりについて自ら考え、「対話」を通して自分の考えを広げると共に、「食」いただく命への感謝の気持ちをもって生活していくことを願った。

「食と命について見直したいことは何か。これからも大切にしたいことは何か。」答えのない問いとした。

毎日の給食でどれだけの命をいただいているのか、絵に表した。また、「命の授業」では、たんぼに宿る命、なぜ命を大切にしなければならないのか、友だちや家族と対話を繰り返したり、色や形、イメージで命の絵に表したりした。

食することと生きることのつながりを実感し、食をいただくときは、いのちをいただくことに感謝をすることを実感し、給食の残りがなくなった。

#### 6年生 総合的な学習の時間「生きる～12歳の誓い」

世界の子どもたちの生活を知り、自分を客観的に振りかえる機会をもつことで、長い間受け継がれてきたかけがえのない「命の役割」に気づき、「対話」を通して、命を活かし、生きていくことを考えてほしいと願った。

昨年訪韓し、お世話になった韓国ウェドン初等学校の友だちを迎え、ホームステイや全校交流、造形活動を通じた交流を通して、日本と韓国の文化の違いを実感しながら、日本に生まれ、成長している自分について考え、実感することができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）